

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 25 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、東京都 東京国際フォーラム
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
丸の内キッズジャンボリー
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 8 月 14 日～平成 29 年 8 月 17 日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 滝澤玲子 特定助教 京都大学野生動物研究センター 大淵希郷 特定助教；日本モンキーセンター キュレーター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。

目的

東京国際フォーラムで開催される「丸の内キッズジャンボリー」の出展を通じ、アウトリーチ活動の現場を経験することを目的とする。

概要

8月14日(月)：前日準備

15日(火)～17日(木)：キッズジャンボリー開催日

所感

私は、事前の準備・企画段階は参加しておらず、前日準備からの参加であった。他の学生や研究者によって趣向を凝らした展示物が用意されていた。ジャンボリーの開催中は、多くの来場者の方々と、展示の紹介を中心にお話した(図1)。来場者にワークシートを配布し、記入してもらう形になっていたため、ワークシートをきっかけに来場した子どもたちとコミュニケーションをとることができた。来場者は小学生が多く、「フィールド」や「ラボ」といった言葉の意味から、なるべくわかりやすく伝えるよう心掛けた。反省点として、来場者の方にもっと興味をもってもらえるよう意識するべきであった点、せっかく展示に興味をもってもらえても、自分の知識不足で来場者に満足な説明ができなかった点などが挙げられる。事前に各



図1. 展示されていた昆虫標本。身近にいる昆虫が多かったが、顕微鏡を使ってじっくりと見る機会は少なく、子どもたちだけでなく保護者の方々も楽しんでた。所々標本が破損しているが、多くの子どもたちが興味をもってくれたことを反映している。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

展示について他の参加者に確認しておくべきであった。

16日の午前、野生動物研究センターの平田聡教授の講演にお手伝いとして参加した。講演の内容は類人猿の心理・行動の研究に関するものであった。自分の知らないことも多く、大変勉強になった。また、参加していた小中学生が積極的に質問しており、その高い意欲と強い好奇心に驚いた。

私は、講演の中で使われたチンパンジーの顔写真神経衰弱ゲームと「ひもひき協力実験装置」ミニチュア版の作成もおこなった。神経衰弱の作成段階では、小学生には難易度が高いのではないかと、という不安もあった。しかし、当日は多くの参加者に楽しんでもらえたと思う。中には、「持って帰りたい」と言っていた参加者もあり、嬉しい限りであった。

キッズジャンボリーでは、たくさんの一般の方々と動物や研究に関するお話をする貴重な体験ができた。この経験を、日常生活や今後の研究活動にも生かしていきたい。

6. その他（特記事項など）

本出張において、京都大学野生動物研究センター 滝澤玲子特定助教、大淵希郷特定助教にお世話になった。厚く感謝申し上げます。また、他の参加者である霊長類研究所・野生動物研究センターの学生・研究者、事務のみなさま、会場である東京国際フォーラムのスタッフのみなさまに温かいご支援をいただいた。お礼申し上げます。